



社会福祉法人鶴風会

創立十周年記念ニュース

昭和49年7月
社会福祉法人鶴風会
後援会

社会福祉法人鶴風会が肢体不自由児のための東京小児療育病院を開設してから満十年を迎えました。

これを記念し去る六月二十二日午前十時より武蔵村山市の同病院において、また同日午後五時より帝国ホテルにおいて、それぞれ関係者を招いて盛大な創立十周年記念式典が行われました。当日は折からの梅雨空にもかかわらず、病院関係者はもとより、各界より多くの善意ある方々が参列され、この意義深い事業の十周年を心から祝しました。

☆武蔵村山市会場☆

六月二十二日(土)午前十一時から東京小児療育病院内において、病院関係者、地元関係者の方々を中心にして記念式典が行われました。そして同時に、永年勤続職員の表彰が行われ、その献身的な努力に対し表彰状と記念品を呈し、その労をねぎらい、また式典終了後、記念パーティーが行われました。

△開会の辞△ 理事 本明登志子

△式 辞△ 理事長 森 寿恵

かえりみまずと、昭和三十五年私どもの母校東邦大学(元帝国女子医学専門学校)の卒業生が公共の役に立ちたいとの願いから、社

会の陰にかくれた脳性マヒ児を救おうというこゝろで、この事業を推進することとなり、昭和三十七年八月社会福祉法人鶴風会を設立し初代理事長として龍知恵子先生が就任されました。

脳性マヒ児は幼少から療育するのでなければ効果があがらないというこゝろで、零歳から六歳までの幼少児専門の病院を設立することとなり、昭和三十九年四月に「東京小児療育病院」を設立し、この事業が発足したのであります。

当時は経済界は不況で、発足についてのご援助も少く、第一期工事の多額の未払金をかかえ、また月々の運営も赤字で、その苦しみは大変でした。

しかし、その後幸いにも、国の福祉行政も改善され、関係官庁の

援助も厚くなり、経済界、地域社会のご理解、ご協力も得られるようになりました。

今後、この事業を進めるためには、重症児施設の「みどり愛育園」の造改築、職員の待遇改善など、なさねばならぬ仕事が出積しております、十周年を迎えて覚悟をあらたにしている次第であります。

△挨拶△ 会長 龍 知恵子

私は設立当時の理事長でしたので、病院の設立に当り、多方面の方々に大変なご協力をいただきましたことを忘れることが出来ません。とくに、厚生省、大蔵省、郵政省、東京都および経団連などの諸団体、自転車振興会、船舶振興会、銀行協会などのみなさまからは大変なご援助をいただきました。

病院が完成しましたとき、私の恩師に当ります初代学長額田晉先生に完成のご報告に伺いましたところ、よくやった、しかし、設立より運営の方が大変なのだ、さらに心を引締めてしっかりやれといわれ、その時はこれからは少しは楽になるのではないかと思っただけに身の引締る思いでした。

その後、当時の厚生省児童局長の黒木先生が陰になり日なたになりご援助をいただき、また、この病院の父母の会の方々の大変なお骨折しも忘れることが出来ません。本日はご多用中ご出席戴きいろいろと有難うございました。

△挨拶△ 院長 藤永 数江

脳性マヒ児の早期療育が強くさげられるようになったこの時に当り、私どもの病院が創立十周年を迎えることになりましたことは感無量であります。

この間、先輩であります肢体不自由児施設の医師の方々の大変なご教示をいただき、また運営につきましては六六七名にのぼる患児の父母の方々のご協力を得、さらに院内においては創立以来、誠意と、愛情をもって努力をつづけられた職員の方々など数多くの方々のご協力によって今日までこ

られたものとおもいます。早期療育の前途には、なお、多くの厚い壁が横たわっておりま。私はこの壁にむかって十一年目の力強い足をのぼしていくつもりであります。

△祝 詞△ 厚生省児童家庭局長 上村 一(代読)

北海道をはじめ、全国各地でポリオが大流行し、肢体不自由児が社会問題として大きくクローズアップされていた昭和三十五年に、いち早く脳性マヒの早期療育の重要性を専門家の立場と、母親とし



森理事長の式辞(武蔵村山市会場)

ての立場から切望され、帝国女子
医専の同窓生が協力して設立され
たのが東京小児療育病院のはじま
りとうかがっております。

同病院は昭和三十九年に設立さ
れ、昭和四十年には全国ではじめ
て脳性マヒの基礎的臨床的研究を
するための研究所をつくり、さら
に重症心身障害児の施設も設ける
など立派な成果をあげ、信望厚い
病院として発展してきました。

福祉の仕事は、行政機関だけで
は充分にはいきません。国民各層
の協力を得てはじめて力強い進展
が可能です。特に民間の創



永年勤続者表彰式

意工夫は、常に行政施策の推進に
当ってパイオニア的役割を果して
いく場合が多いのであります。

今後、ますますみなさまのお仕
事が発展をつづけられるようお祈
りしてご挨拶にかえます。

△祝詞▽

東京都知事 美濃部亮吉(代読)

東京小児療育病院は、昭和三十
九年四月開設以来、十年間にわた
り愛情のこもった療育をつづけら
れ、わが子の将来を案じて暗い毎
日をおくって来た家族の方々、将
来への希望と生きる喜びをあたえ
て下さったことに対し心から感謝
の意を表する次第です。

依然として医師や看護職員の不
足は深刻でありました、最近の物価
高など施設の経営を一層困難にし
ております。こうした中において、
て、東京都といたしましては、物
価高、もの不足に対処出来るよう
緊急援護費を新たに設けるなど、
社会的弱者の立場に立った福祉
優先の予算を編成し心身障害児対
策についても、より強力に推し進
め、安心して療育に専心出来るよ
う十分な施策を進めていくつもり
でおります。

おわりに、施設の一層の発展を
お祈りしてご挨拶いたします。

△祝詞▽ 武蔵村山市長

荒田 重之(代読)

今までのみなさまからご紹介さ
れましたような、立派な施設がこ
の武蔵村山市の中にありますこと
は、われわれ福祉を担当するもの
にとりまして非常に肩身の広いこ
とであり、また公的な施設のない
中で活躍されていることはほんと
うに感謝の念に耐えません。今後
とも、この施設が発展されるよう
お祈りいたしまして、ご挨拶と致
します。

△祝詞▽ 整肢療護園長

小池 文英

思い出しますと、たしか昭和三十
七年ごろだと思いますが、龍先
生、藤永先生が私の施設におこし
になり、施設を視察されたあと、
実は鶴風会としても、肢体不自由
児施設をつくる計画の中なので、施
設の運営について意見を聞かせて
ほしいということでした。そこで
私は、それは止めた方がよいと申
しあげました。というの、は、当
時、私の施設は厚生省の委託経営
であって、建物、設備は厚生省で
つくり、運営の方も、若干、赤字
補綴をもらってやっていました
が、それでもなお、運営が苦しい

状況でした。まして民間でやるの
は大変なことだから止めたほうが
良いと申しあげたわけです。とこ
ろが龍先生は、実は脳性マヒ専門
でやろうと思うとおっしゃるの
で、それでは益々大変だから止め
た方が良くと申しあげたのです。
いろいろと生意気な意見を申し
あげたので、思いとどまったので
はないかと考えていましたところ
、それからいくばくか経って開
院式の招待状をいただき参上しま
したところ、すばらしい設備が出
来上っていて驚嘆した次第です。
幼少児療育といっても、学令ま
え、とくに三歳以下の乳児期の子
供ということになると余りにも小
さいという常識論もありました
が、この常識に敢然として挑戦
し、立派な成果をあげたことに對
し、敬意を表するものでありま
す。

今後も苦勞が多いことと存しま
すが、ますます立派にお仕事を成
長させて下さるようお祈り致しま
す。



△永年勤続者表彰▽

▽十年勤続

- 庶務課長 大貫 峯吉
- 給食調理係長 橋本 安次
- 医事係長 小野満富久子
- 汽缶士 鳥羽 安一
- 運転手 半田 一郎
- 消毒手 小林 光秋
- 用務手 半田寿江子
- 保母 鍵山 友
- 管理係長 大場 勝男
- 調理助手 滝口 静江
- 看護助手 板橋 雄子
- 看護婦 大場千代子
- 用務手 吉田はるよ
- 機能訓練士 佐藤 敦子
- 看護助手 石井 炭子
- 訓練係主任 高野 一
- 看護婦 西田 敏子
- 薬局係長 中島紀宮子
- 看護婦 鈴木はる子
- 用務手 内野 トク
- 看護婦長 山崎婦さ子

▽七年以上勤続

- 看護婦長 加藤喜美子
- 書記 加藤 隆介
- 用務手 大野 律子
- 看護助手 福島 きそ
- 洗濯手 小川 晴二
- 書記 池田 ひで
- 准看護婦 平内 ムツ
- 調理士 田村 義雄
- 調理助手 渡辺ヨシミ
- 看護助手 甲斐 亨
- 施設管理係長 原崎 正子
- 検査助手 渡辺 虎吉
- 浜野 修

☆帝国ホテル会場☆

六月二十二日(土)午後五時から帝国ホテルにおいて各界の有力者の方々をお招きして、華やかに記念式典が行われました。

△開式▽ 理事 本明登志子

△式辞▽ 理事長 森 寿恵

(武蔵村山市会場でのご式辞と同趣旨でございますので省略させていただきます。)

△挨拶▽ 黒木 利克

記念式典に引きつづき、十周年記念祝賀会が行われ、かずかずの心あたたまる来賓の祝詞をはじめとして、功労者の方々の花束の贈呈が行われ、また、とくに福祉事業にかねてから協力されている声楽家石井好子さんと、お弟子さんの大場照子さんの、すばらしい独唱も行われ、文字通り、実のある式典に花をそえた、すばらしい雰囲気祝賀会となり、同時に、引きつづいて本会創立当時の理事長龍知恵子氏が多年にわたる社会福祉事業に対する貢献に対し、昨秋、勲四等を授けられましたことを祝しての祝賀会に移り、来賓の祝詞、龍先生の答辞のあと、関係者一同より記念品として贈られた先生の肖像画(渡辺千代樹画伯筆)の除幕が、万雷の拍手のうちに、一同、先生のご功績を心からたたえ、なごやかなうちに祝賀会をおわりました。

す。しかし、私も専門家の目から見ますと決してそんなことはありません。最近、厚生省の児童家庭局の障害福祉課長が、先進国の施設を視察して参りましたが、その報告によりますと、日本は断然先進国を抜いており、世界一だといふことであり、私もそれを信じております。とくに、鶴風会はこの二つの施設はわが国のリーダー格であります。今、多くの施設で従業員との間にトラブルをおこしておりますが、鶴風会の施設にはそういうこともなく、あらゆる点からこの施設は世界一だと言えると思えます。

この施設の創設当時、財界の代表として水野成夫氏が参加されていました。当時は、永野さんや、足立さんなどの財界の大御所が顔をつらねておられました。当時の総理夫人の池田満枝夫人のお力ぞえと思いますが、財界の大物が多数この事業に協賛され、その中心が水野先生で、私はこの老練な財界人におだてられて、後援会の会長になってやるから、お前は鶴風会の理事をやれということでお引受したわけでありませぬ。

設立についての龍知恵子先生の構想は実に雄大でユニークなものでした。女性にしてよくこれだけ

の大きな計画をお考えになったものと敬服している次第であります。当時は財界も不況に見まわれ、計画通りの資金が集まらず、龍先生と、そのあとの森先生は財界各方面に日参し大変な苦勞をされた。また増岡さんは出世払いといふことで建築工事を引受けられたのも有難いことでした。昭和三十七年に社会福祉法人の認可がとれ、国有財産の払下げをうけることが出来、それが助けの神となり、七年後にその一部を売り、ようやく借金が払えた次第です。

鶴風会の事業は世界をリード出来る実績をあげつつあります。

どうか十周年を機会に、益々世界をリードする施設として発展されるようお祈り致します。

△祝辞▽ 日本心身障害児協会

理事長 渥美 節夫

私は黒木氏のあとをうけまして厚生省の児童家庭局長をやりましたが、ちょうどそのころ、東京小児療育病院の建設中で、よく龍先生、森先生をはじめ幹部の方々が見え、青い顔をしてヒソヒソ話をされていました。それはお金の話で、普通は十二月のことを師走といいますが、鶴風会の方は一年中

師走のような苦勞をされておりました。私は、最近島田療育園長をお引受致しましたが、実際にやってみると、こういう仕事の大変なところがよくわかります。

重症心身障害児の問題は、これからの大きな問題であります。鶴風会では女医であるみなさま方が中心になって医学的な研究の上に立って子供達の療育に当たっております。こういうことはわれわれ同様の施設を運営している者にとって力づよいことでもあります。

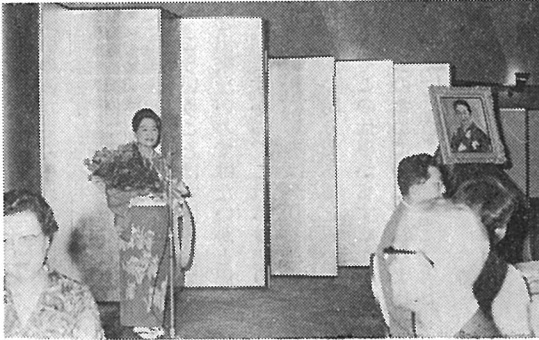
あらためて鶴風会のみなさまに厚くお礼を申しあげ、今後の一層の発展をお祈り致します。

△祝詞▽ 東京都医師会理事

時見 徹彦(代読)

脳性マヒ児の療育には早期発見・治療が大切なことは申すまでもありません。今日鶴風会では、すでにその対策療育と原因究明の大目標をかかげ、幾多の困難をのりこえて十周年をむかえました。

今や、わが国は産業優先から福祉優先へと大きく転換してあります。それにともない東京都を始めとして地方公共団体も福祉を中心とした各施策を実施しつつあります。このようなときに当って東京都医師会は正しい医療制度を確立



龍先生と肖像画(帝国ホテル会場)

しなければならぬ使命と責任があります。

福祉事業の前途は困難が多いと思いますが、今後も、みなさまのご努力によって一層の発展をされるよう心からお祈り致します。

東京都医師会長 渡辺 真言

△祝詞▽ 整肢療護園長

小池 文英

(武蔵村山市会場での祝詞
と同趣旨でございますので省略させていただきます)

△祝詞▽

日本女医会々長 三神 美和

十数年前のことでしたが、日本女医会の総会の席上で、鶴風会がこういう事業をするということが発表された。全くすばらしい計画だと心から感動したことを覚えております。また一方では、この仕事は大変な事で、ご苦労の多いことだと思いました。

こういう事業は、献身的な事業で、みなさんの協力がなければ出来ません。鶴風会の事業が今日の成功を見たのは、龍先生を中心としてみなさんが献身的努力をされたからであります。この十年間、多くの肢体不自由児が救われ、本人はもとより、そのご家族もどんなに

お喜びかと思えます。日本女医会は昭和三十四年に鶴

風会のみなさんのお仕事に対し、吉岡弥生賞を龍先生をはじめとするみなさまに差上げ、その功績をたたえました。

こういうことは女医の手でないと出来ないのではないかと思います。ですから、これはひとり鶴風会の誇りであるばかりでなく日本の女医の誇りであると思います。どうぞこの仕事が進みます発展して社会のためにつくされるようお祈り致します。

△祝詞▽

東邦大学理事長 桑原 章吾

東邦大学を代表して一言お祝いを申しあげます。

昭和三十五年から三十六年は、東邦大学にとって大きな出来事があった年です。大病院で組合が結成され、それにとまってストライキがくりかえされ、学内全体が騒然としていました。鶴風会関係の教員も大きな圧迫をうけることもありましたが、そうした中で、このような大きな事業を推進されたことは大変なことでした。設立当初は、大学の関係者の中でも運営について将来を危ぶむ声もあり、また、具体的にマイナス

に働く力もあつたように何つてお

ります。大学もその後大きな変化をとげ当時教授の一人であつた私が学校法人の運営をあづかることになりました。大学の方も一応小康を得て発展の兆が見えてきています。

しかし、まだ卒業生のみなさんのこのような有意義な事業に対してお手伝いをする余力をもちえない状況であることをはずかしく思っております。本来、東京小児療育病院であつたかうべきこのような重要な医療が行なえない医療行政は排除されるべきであり、または改められるべきものであります。

こんごのお手伝いをお約束してお祝いにかえたいと存じます。

△祝詞▽

社団法人鶴風会理事長 柴田 洋子

十年前に鶴風会の一員として開院式に臨んだとき、広大な武蔵野の地域に出現した新しい病院と研究の施設、その建物の鶴風会のツルのマークを見たとき、深い感銘と誇りを感じたのであります。

鶴風会の歴史を見ると、終戦直後から同窓会の手による病院をつくらうという話が芽ばえてきました。当時大学は戦争により大きな痛手を受け、もちろん同窓会も低

迷をつづけていたのです。

その中で、龍先生、藤永先生などの諸先生はなにか同窓会のためのプランをということで大変な苦

勞をされました。武蔵村山市を選ぶ前の第一の困難な時期でした。第二の困難は建設の時代で、この時代の苦勞は今までご紹介があつた通りです。

第三の困難は設立以後今日までの運営の苦勞です。

そして、ともかくあくまでも初心を変えず、女性にして今日までつらぬき通したことは素晴らしい事と存じます。また初代理事長のあ

とをつがれた森理事長が、ご自身の生活や健康もかえりみず、その基礎を固めて下さつた功績も高く

評価されるべきものと存じます。

さきほど、鶴風会の仕事の世界的なものだとのおほめの言葉をいただきましたが、私自身、肢体不自由と表裏一体とも云うべき精神障害の問題をライフワークとしているので、心身障害の施設は、近代的医療の下積みとされること

が多いことを痛感しております。今後とも初心を忘れずさらに十年も百年もつづけられるような構想をたてて進まれるよう、また、私どもより若い同窓生にあとにつづいていただきたいと存じます。

後援会入会のお願ひ

当施設のような特殊な療育を行う病院では一般病院の倍以上の専門職員を必要とします。また一方で最近の人員費の増大、物価の高騰によって病院の運営は困難をきわめております。

このような状況から、この事業に是非とも多くの方々のご理解、ご援助をお願い申しあげます。次第です。

- ★後援会費はつぎの通りです。
- 正会員 一口(年間)二千元
- 賛助会員 一口(年間)五百円
- 特別会員 一口(年間)一万元
- 法人 一口(年間)三万円以上

△編集後記▽

輝かしい十周年をむかえ、武蔵村山市の病院および帝国ホテルの両会場で記念式典が行われました。

このニュースは、広く関係者のみなさまに当日の様相を出来るだけくわしくお伝えするために編集いたしました。不慣れのためご期待に比べられるようなものが出来ませんでしたことをおゆるし下さい。

今後とも機会ある毎に、出来るだけ実状をみなさまにお知らせするよう努力したいと思っております。

(倉島)